

## 江津地域の今後の県立高校の在り方について

### 1 これまでの経緯

6月議会	「基本的な方針（案）」を説明
6月30日	江津市説明（市長・副市長・教育長）
7月5日	江津高校関係者説明会
11日	江津工業高校関係者説明会
15日	地域説明会
8月9日	島根県総合教育審議会への諮問
上旬	産業界（商工会議所・商工会）からの意見聴取
9月13日	第2回島根県総合教育審議会
10月6日	第3回島根県総合教育審議会
17日	第4回島根県総合教育審議会
19日	島根県総合教育審議会からの答申
24日	パブリックコメント（11月23日まで）

### 2 パブリックコメントの実施状況

#### (1) 内容・期間

- ・ 地域説明会や審議会からの答申などを踏まえて、修正した「基本的な方針（案）」について意見を募集（別添資料1）
- ・ 10月24日（火）～11月23日（木）

#### (2) 提出された意見

- ・ 64件（20人）

#### (3) 意見と対応

- ・ 別添資料2のとおり

### 3 パブリックコメント実施後の県の考え方

- ・ 令和5年10月23日に修正した「基本的な方針（案）」について、追加の修正の必要はないと考える

#### 4 最終的な基本的な方針（案）

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 江津高校と江津工業高校を統合し、1 学年 120 人規模の新たな魅力ある高校を設置
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 学科名、コース名、教育の具体的な内容については、地域の意見を丁寧に聴取しながら検討
- ・ 地域や地元教育機関等と連携し、探究的な学びを生かした魅力ある教育を展開
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和 10 年度前後を想定
- ・ 開校までの間、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直す

#### <新設校のイメージ>

想定される学び		1 学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学をめざすコース(文・理)</li> <li>・ 地域課題を探究し進学をめざすコース</li> <li>・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース</li> </ul>	2 学級 (60)	2 学科 4 学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械系</li> <li>・ 電気系</li> <li>・ 建築土木系</li> </ul>	2 学級 (60)	

#### 5 今後のスケジュール

2 月～ 開校準備委員会設置

## 江津地域の今後の県立高校の在り方について

### 1 はじめに

近年の少子化の影響により、江津地域においては、市内中学校卒業生数が令和 5 年 3 月の 180 人に対し 14 年 3 月は 140 人 (22. 2%減) と推計され、隣接する浜田市内 (7. 8%減) と比べて減少傾向が顕著である。さらに、直近 5 年の江津市の出生数も平成 30 年 132 人、令和元年 136 人、2 年 112 人、3 年 113 人、4 年 112 人と減少傾向にある。

また、江津地域の中学校卒業生の希望進路は多様であり、市内の私立高校、他地域の県立高校、さらには県外の高校等を希望する生徒が一定程度いるため、近年の江津高校、江津工業高校への進学者をあわせて 40%程度に留まっている。江津地域の令和 10 年前後の中学校卒業生数が 150 人前後と見込まれることから、両校への進学を希望する生徒数は、1 学年 60 人程度、江津市外からの入学者を加味しても 100 人程度と想定される。つまり、現在の 1 学年 2 学級 80 人定員の 2 校を、将来にわたって維持することは困難であると考えられる。

こうしたことから、県教育委員会では江津地域の子どもたちの選択肢を確保した上で、将来にわたって充実した高校教育を提供し、卒業後の進路につなげることができるよう、江津地域の今後の県立高校の在り方について検討してきた。

浜田市・江津市を一体的に考えた場合、昭和 33 年以前のように浜田高校、浜田水産高校、江津工業高校の 3 校の形に戻すことも考えられるが、昭和 33 年に江津市待望の普通科高校が設置され、以降、65 年間にわたり普通科人材を輩出してきたことを考慮すれば、人材育成、移住・定住、まちづくりの観点から、今後も江津地域に普通科系の学びの場を残すことが必要と考える。

一方で、石見地域における工業人材の育成の観点からは、工業教育のさらなる魅力化も必要である。現在、石見地域における工業人材の育成は、益田翔陽高校の 2 学科と江津工業高校の 2 学科によって担われているが、江津工業高校はその長い歴史の中で、石見地域における工業人材の輩出に大きく貢献してきており、現在も地元産業界から大きく期待されている。

こうした視点を踏まえた高校教育を実現するためには、両校を統合し、1 学年 100～120 人規模の新たな魅力ある高校を設置することが望ましいと考え、有識者で構成する島根県総合教育審議会からの答申も踏まえながら、江津地域の今後の県立高校の在り方について基本的な方針 (案) を決定した。

## 2 現状

### (1) 江津高校と江津工業高校の入学者数等

高校	年度	H31	R2	R3	R4	R5	5年平均
江津高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数(県外生)	72 (1)	55 (4)	57 (2)	60 (1)	66 (2)	62 (2)
	定員充足率	90.0%	68.7%	71.2%	75.0%	82.5%	77.5%
江津工業高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数(県外生)	50 (0)	55 (1)	49 (2)	41 (1)	45 (0)	48 (1)
	定員充足率	62.5%	68.7%	61.2%	51.2%	56.2%	60.0%

### (2) 江津市内中学校卒業生数推移

卒業年月	R3.3	R4.3	R5.3	…	R8.3	…	R14.3
中学校卒業生数	190	190	180	…	148	…	140
R5.3比	+10	+10	—	…	△32	…	△40

※ R8.3とR14.3の卒業生数は、令和5年5月1日現在の小中学校在籍者数より推計

### (3) 江津市内中学校卒業生のうち高校(全日制)進学者の内訳

年度		R3	R4	R5	…	R8
江津高校		47 (+市外10)	46 (+市外14)	45 (+市外21)	…	35 (+市外14)
江津工業高校		20 (+市外29)	20 (+市外21)	20 (+市外25)	…	15 (+市外25)
私立高校 及び その他地域	浜田市内県立	40	34	26	…	87
	江津市内私立	36	36	37		
	その他県内	27	33	23		
	県外	6	8	11		
計		176	177	162	…	137

※ R8の進学者は、令和5年度までの入学者数により推計

### 3 基本的な方針（案）

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 学科名、コース名、教育の具体的な内容については、地域の意見を丁寧に聴取しながら検討
- ・ 地域や地元教育機関等と連携し、探究的な学びを生かした魅力ある教育を展開
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定
- ・ 開校までの間、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直す

#### <新設校のイメージ>

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学をめざすコース（文・理）</li> <li>・ 地域課題を探究し進学をめざすコース</li> <li>・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース</li> </ul>	2学級 (60)	2学科 4学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械系</li> <li>・ 電気系</li> <li>・ 建築土木系</li> </ul>	2学級 (60)	

## 江津地域の今後の県立高校の在り方についての意見募集に対する県の考え方

No.	項目	ご意見の要旨	ご意見に対する県の考え
1	統合について	統合はベストな判断。今後も地域の協力が必要だと考えられるので、しっかり説明をすること。	これまで学校関係者説明会や地域説明会を行ってまいりました。また、島根県総合教育審議会等での議論も、終了後直ちに県教育委員会のホームページに公開するなど、情報を地域の皆様にお伝えしてきました。今後も、丁寧に情報を発信してまいります。
2		歴史ある江津工業高校に普通科を設置し、江津高校を吸収合併するのが望ましい。	江津工業高校には、前身校から数えると100年を超える学びと、石見地域全体の工業人材の育成に大きく貢献してきた歴史があります。また、江津高校は、昭和33年に江津市待望の普通科高校として設置され、以降65年間にわたり普通科人材を輩出してきた歴史があります。 有識者で構成する島根県総合教育審議会からも「一定の対等性も必要である」との答申をいただいております。新設校の設置という形の基本的な方針（案）としたところであります。
3		ベクトルが異なる普通科系と工業科の統合に反対。同じ科同士の統合が筋ではないか。	普通科系と専門科が併設される高校は全国的にも増加しており、互いの学びを尊重しつつ刺激を受けあうなどの教育効果があると聞いています。また、普通科系の生徒が工業の知識を学べたり、工業の資格を取得できる、工業科の生徒に普通科の幅広い学びを提供できたり、進学指導ができるなどのメリットが想定されます。加えて、互いの探究学習や課題研究が連携することで幅広く深い実践的な学びが実現でき、地域にも貢献できると考えています。
4		普通科系と工業科を統合することに疑問。	
5・6		統合決定までの期間が短い。最低あと1年かけて再検討すべき。（2件）	

7		それぞれ特色のある江津高校、江津工業高校の2校を維持すべきであり、維持できると考える。効率化のための統合に反対である。	<p>更なる少子化が進む中で、江津地域の子どもたちの教育環境や進路の選択肢を維持し、より魅力的な高校教育を実現するために新設校を設置したいと考えています。</p> <p>新設校では、江津高校、江津工業高校がこれまで築いてきた歴史や、学びの特色を引継ぎ、加えて、普通科系と工業科が併設されることによる新たな魅力ある教育を実現したいと考えています。</p>
8		普通科系2学級、工業科2学級での統合であるならば、2校を独立して維持すべき。	
9・10	統合について	昭和30年初めの浜田高校・浜田水産高校・江津工業高校の3校に戻すべき。(2件)	<p>江津高校が昭和33年に江津市待望の普通科高校として設置され、以降65年間にわたり普通科人材を輩出してきたことを考慮すれば、人材育成、移住・定住、まちづくりの観点から、今後も江津地域に普通科系の学びの場を残すことが必要と考えています。</p>
11		基本的な方針(案)に反対である。江津高校は浜田高校に統合、江津工業高校は浜田商業高校と邇摩高校を統合し拠点の実業高校とし、浜田水産高校は単独で残す、という再編案が良い。	
12		浜田高校と江津高校を合併し、江津工業高校と浜田商業高校を合併し江津に新設の工業科と商業科併置の高校を設置し、その高校のために寄宿舍を整備して欲しい。	
13		石見振興や、西部県民視線を無視した統合案に反対。	

14		文理選択を可能とするため、医師を確保するために普通科系2学級が必要。	理系進学への対応も想定し、普通科系2学級60人定員としています。
15		新設校には、介護従事者の養成機能、介護・福祉についての学びを入れて欲しい。	普通科系における、資格職を目指す進学コースにおいて、介護・福祉職を目指すことも可能です。ただし、介護・福祉職を目指す場合は、さらに上級学校へ進学し、資格を取得した後に就職することが多い状況も踏まえて検討してまいります。
16	普通科系の学び	江津高校の学びの現状や島根県立大学浜田キャンパスとの連携を考え、普通科系に「地域課題を探究し進学をめざすコース」の設置を強く願います。	江津高校がこれまで築いてきた地域と連携した学びを引き継ぎ、より実践的なものとするを想定し地域課題を探究し進学を目指すコースの設置を考えています。 また、江津工業高校でも地域と連携した学びを積極的に進めてきました。 今後、具体的な学びの内容を検討するに当たっては、普通科系、工業科を問わず地域と連携し、探究的な学びが充実するよう進めていきたいと考えています。加えて、島根県立大学浜田キャンパスとの連携が深まるよう検討してまいります。
17		1学級は国公立進学、1学級は女子生徒が入りやすいよう資格取得を目指す学科とするべきである。	普通科系に進学を目指すコース（文・理）を想定するとともに、看護や栄養、保育などの資格職を目指す進学コースを想定しています。
18		海外からの学生とともに学ぶ国際コースを設置して欲しい。	多文化共生等の学びは重要と考えています。 基本的な方針決定後、具体的な学びの内容を検討する際の参考とさせていただきます。
19		大学進学を目指す中学生には、浜田高校や石見智翠館高校が受け皿となるように努めるべきである。	昭和33年に江津市待望の普通科高校である江津高校が設置され、以降65年間にわたり普通科人材を輩出してきたことを考慮すれば、人材育成、移住・定住、まちづくりの観点から、今後も江津地域の県立高校に普通科系の学びの場を残すことが必要と考えています。
20		江津地域に普通科系の学びを維持することに感謝。	



21	工業科の学び	少子化が進む中、普通科系2学級、工業科1学級とすべき。	工業科の学びは幅広いことから2学級が必要と考えます。また、地元中学生の工業科の学びのニーズや、地元産業界からのニーズ、さらに県西部の工業人材の育成という観点からも2学級60人程度の定員が必要と考えています。 具体的な学びの内容については、基本的な方針決定後に検討してまいります。
22		工業科のコース選択は機械系、建築科系、電気科系、情報科系の4コースが良い。	
23	学科・コース	システムエンジニア系の学科を設立して欲しい。	システムエンジニア養成等の情報系については、さらに上級学校に進学し、知識・技術を身に付ける必要がある場合が多いと考えているため、単独で学科を設置することは考えておりませんが、基本的な方針決定後の具体的な学びの内容を検討する際の参考とさせていただきます。
24		総合学科を設立して欲しい。 ※ 総合学科…生徒が学びたい科目を自分で選択し、自己の進路への自覚を深め、主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験することを目指した学科	普通科系への総合学科導入については、基本的な方針決定後の具体的な学びの内容の検討の際の参考とさせていただきます。 工業科への総合学科導入については、専門性の観点から考えておりません。
25		建築科を単独で設置して欲しい。	工業科の学びの幅広さと、更なる少子化が進む中、建築科のみを単独で設置することは難しいと考えます。
26		基本的な方針(案)を支持するが、コース選択やコース変更が柔軟にできるようにして欲しい。	転科や学科内のコース選択については、柔軟な対応が可能となるよう、基本的な方針決定後、体系的な学びの必要性や資格取得のために必要な単位取得等も踏まえながら検討してまいります。
27		普通科系学科と工業科の間で転科できる制度を検討して欲しい。	

28	学びの内容	現在・未来の江津にとって望ましい学びの内容として欲しい。	地域や地元教育機関と連携し、探究的な学びを生かした魅力ある教育を展開していくこととしています。 基本的な方針決定後、地域、地元中学生等の意見を聴きながら検討してまいります。
29		子どもたちの個性が輝く新設校を設置して欲しい。	基本的な方針決定後、具体的な学びの内容を検討する際の参考とさせていただきます。
30		「ジュニアマイスター制度」や「短期海外留学」等、高い目標をもった教育内容が必要。	具体的な学びの内容については、基本的な方針決定後、学校や関係者、地元中学生等の意見を踏まえて検討してまいります。
31		工業高校の中の普通科として看護や情報系を教科に取り入れて少し違った普通科を目指すべき。	普通科系の資格職を目指す進学コースでは、看護、栄養、保育職を目指すことを想定しています。 情報系については、さらに上級学校に進学し、知識・技術を身に付ける必要がある場合が多いと考えます。 基本的な方針決定後、具体的な学びの内容を検討してまいります。
32・33		新設校には校舎改修計画を含むべき。(2件)	必要な施設・設備の整備については、基本的な方針決定後、具体的な学びの内容や特色ある教育活動を検討する中で、合わせて検討してまいります。 また、跡地利用についても、今後検討してまいります。
34	施設・設備を整備し、生徒が安心して生活できるよう環境整備をして欲しい。		
35	新設校の整備計画と江津高校の跡地利用方針を明確にして欲しい。		
36	新設校に簡易でも屋内プールを建設し、水球部の発展と地域への貢献への手助けをして欲しい。		
37	新設校の場所	現在の江津工業高校の場所は津波の危険性があり、別の安全な場所にして欲しい。	津波などの自然災害等に対しては、現在、全ての県立学校において危機管理マニュアルを策定しており、主体的に避難訓練を行うなど児童、生徒の安全確保を図っています。

38	開校時期	新設校を1年でも早く開校すべき。	具体的な学びの内容の検討や、施設・設備の整備に十分な時間が必要であるため、令和10年前後を目途としています。
39	島根県立大学、ポリテクカレッジ島根との連携	大学やポリテクの推薦枠を持つなど新設校にふさわしい学科が必要。	<p>基本的な方針(案)においても、地域や地元教育機関と連携し、探究的な学びを生かした魅力ある教育を展開することとしています。</p> <p>基本的な方針決定後に、どのような連携が可能か検討してまいります。</p>
40		統合校は、ポリテクカレッジとの連携を強化し、若年高度産業人材創出の育成機関にする。	
41		広く生徒募集するためにはポリテクカレッジとの連携等の魅力化が必要。	
42	寄宿舎	市外県外からの生徒の受入れを可能にするため、女子寮を設置して欲しい。	<p>県立高校の寄宿舎は県内の通学困難な生徒のために設置しています。</p> <p>現在、江津工業高校に設置している寄宿舎は男子を対象としており、江津高校の生徒も利用しています。</p> <p>女子寮については、今後の入学者や希望者の状況を注視し、現在の寄宿舎の改修など、どのような対応ができるか検討してまいります。</p>
43・44・45		統合校には男女が利用できる寄宿舎を整備して欲しい。(3件)	
46		女子生徒が入りやすい環境づくり、市内外の女子生徒が入学できるように女子寮が必要である。	
47		中山間地域からの通学は難しいことから男子寮だけでなく、女子寮の完備をする必要がある。	

48	教員関係	新設校に配置する校長等管理職は様々な課題をクリアできるスキルを有した人材を最低5年継続して配置して欲しい。	県立学校の人事配置の中で、引き続き、管理職、教員共に適切な配置となるよう進めてまいります。
49		知識・情熱を持った教員を配置して欲しい。	
50		教員研修等により最新の工業の技術を学校教育に反映するべき。	
51 ・ 52	校名	新設校の校名は江津工業高校、江津工科高校等にすべき。(2件)	基本的な方針決定後、検討してまいります。
53		生徒がワクワクする様な校名を公募し、生徒の投票等で決めて欲しい。	
54 ・ 55	その他	全県での再編計画を見直すべき。(2件)	令和6年度までの県立高校の在り方については、現在「県立高校魅力化ビジョン」(平成31年2月策定)において、以下のとおり県教育委員会の考え方を示しています。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元市町村及び地域の参画を得ながら、協働して高校の魅力化・特色化を進めていくとともに、それぞれの取組の成果を検証し、より望ましい高校の在り方を県と地元市町村の間で共有する。</li> <li>・ 高校と地域が一体となった魅力化・特色化の取組や成果を踏まえ、中学校等卒業者数や入学定員に対する志願者数、入学者数の状況等を注視しながら、地域における高校・学科の在り方や配置について検討する。</li> </ul>
56		産業界、経済界、教育界、市議会等のそれぞれの分野での議論を深めたのち、県立高校の再編計画を議論すべき。	

57		<p>基本的な方針の決定の前に当事者の子どもたちの意見を聴くべき。</p>	<p>基本的な方針は、江津高校と江津工業高校を統合し新設校を設置するかどうか、学級数や定員をどうするかなど高校の在り方の議論であり、学校関係者や保護者、地域の大人の方から意見を聴くことが適切であると考えます。</p> <p>なお、具体的な学びの内容については、基本的な方針決定後、地元中学生等の意見を聴きながら検討してまいります。</p>
58		<p>中学生、特に中学3年生に現在の状況・議論を丁寧に説明するべき。</p>	<p>現在の中学校2・3年生、保護者に対しては、市の教育委員会を通じて、進路選択に影響がないことを文書により説明しました。</p>
59	その他	<p>地域説明会開催等についての周知が足りない。もっと大衆の目にとまるようにするべきだった。</p>	<p>地域説明会の開催は、県教育委員会のホームページや市教育委員会等を通じて周知をいたしました。</p> <p>また、これまで実施してきた学校関係者説明会や地域説明会でのご意見に対する考え方や、島根県総合教育審議会での議論の内容は、説明会等終了後、直ちに県教育委員会のホームページに公開するなどしております。</p> <p>パブリックコメントについても、新聞、県教育委員会のホームページ、報道機関への広報等を実施し、多くの意見をいただいたと考えています。</p>
60		<p>丁寧な説明というのであれば、オンラインでの説明会の実施も考えるべきだった。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>
61		<p>県西部に就労・居住するポリテク卒業生は学費免除とする奨学金制度を設ける。</p>	<p>現在、県としてはポリテクカレッジ島根に進学する生徒のみを対象とする奨学金制度等は設けておりません。</p> <p>江津市が市内で働く若者を増やすことを目的として、入校料と授業料に相当する額を無利息で貸与する奨学金制度を設けていると聞いています。</p>

62	その他	<p>異常気象による公共交通機関の乱れ等、学校に登校したいのに登校出来ないといったことからスクールバスを運行して欲しい。</p>	<p>通学困難な生徒に対してのスクールバスの運行等による通学支援は考えておりません。</p> <p>なお、異常気象等で通学が困難な場合には、学校が休校等の適切な判断により生徒の安全を確保しています。</p>
63		<p>スクールバスを運行して欲しい。</p>	
64		<p>県内外、海外からの受入れ、海外への留学を進めて欲しい。</p>	<p>現在、県外生徒等の受入れについては、県内の子どもたちに適切な教育環境を提供することを第一に考え、入学定員や受入施設の状況に応じて対応することとしています。</p> <p>県外、海外からの生徒の受入れや、海外留学については、基本的な方針決定後、具体的な学びの内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>